

院内診療録使用に関するお知らせ

『研究課題名 当院での過去5年間における角膜穿孔の原因と経過について』

【研究の背景および目的】

角膜穿孔は比較的稀な疾患ですが、外傷や、細菌や真菌、ヘルペスなどの感染ないし非感染性の炎症性角膜潰瘍、ドライアイに続発するなど、さまざまな原因で起きてくることが知られております。角膜穿孔を来たした場合、その時点で視機能が障害されているだけでなく、続発して白内障や脈絡膜剥離、緑内障、さらには眼内炎を引き起こし、恒久的な視機能障害につながる可能性があるため、眼科診療を行う上で最も深刻な事態の一つであり、早急の対応が必要となります。

そこで、東邦大学医療センター大森病院眼科では、今回、当院に来院した角膜穿孔の患者様において、その方の角膜穿孔の原因(原疾患)、背景、治療内容、視力予後、合併症、来院後経過を診療録から後ろ向きに検討し、角膜穿孔の原因と経過・治療を検証することを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、患者様に対してよりよい医療を提供するための情報を発信できることにつながります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。2014年～2018年までに東邦大学医療センター大森病院眼科において、『角膜穿孔』または『眼球穿孔』の病名が入っている症例を対象とし、診療録(カルテ)を参照して角膜穿孔の原因と経過を調査します。

本研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。また、本研究では、研究責任者(堀 裕一)が得ている講座研究費を使用します。堀 裕一には利益相反状態が存在しますが、適切に処理されています(東邦大学医療センター大森病院 COI 委員会)。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理診断結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院 眼科

職位・氏名 教授・堀 裕一

電話 03-3762-4151 内線 6710